

# 旧本川根中学校のプールでヤマメは養殖できるのか

光の森学園9年 中村 陽瑠斗

## テーマの設定理由

7年生の3学期に職業講話でヤマメの養殖についての話を聞き、興味を持ったことがテーマ設定の理由です。また、本川根中学校が閉校となり、使われなくなったプールを活用できないかと考えました。



## 調査方法について

ヤマメについての調査方法として、タブレットを使用して情報を収集しました。また、職業講話に参加した梶山雅史さん（寺馬区）へのインタビューと研修を通じて実践的に学び、さらに梶山さんからももらったヤマメを調理して体験しました。

## タブレットを使って調べたこと

ヤマメは主に水生昆虫や落下昆虫、小魚を食べる魚で、寿命は2年〜3年です。生息環境は水温や流れによって決まり、特に3月〜8月にかけて脂がのり美味しくなります。産卵期には800〜1000個の卵を産むことが特徴です。食べ方としては、塩焼き、唐揚げ、刺身、ムニエル、南蛮漬け、一夜干し、甘露煮など多様な調理法があります。

## 梶山さんへのインタビューを通して分かったこと

梶山さんへのインタビューを通して、養殖においては魚の粉末を餌として使用し、1〜2週間ごとに生け簀の掃除を行っていることがわかりました。養殖を行う際には、できるだけ自然な環境に近づけること、水の循環とろ過が重要



▲ヤマメの養殖生け簀に沢の水を引く様子



▲梶山さんのヤマメの養殖生け簀



▲ヤマメの餌に使用しているペレット（主な原料に魚粉が使用されているもの）

であること、またサイズの異なる魚を混ぜると大きい魚が小さい魚を食べてしまうため、同じ大きさの魚を入れることが推奨されています。



▲梶山さんの育てた養殖ヤマメ（脂がのり丸々としている）



▲ヤマメの魚卵を採取する中村さん

**ヤマメの養殖体験を通して**  
実際に、ヤマメの餌やりと魚卵の採集体験をさせていただきました。梶山さんからいただいたヤマメを使って、調べた料理の中から刺身と唐揚げを作り、とても美味しくいただくことができました。



▲ヤマメのから揚げ。熱を通すことでほろほろとほぐれる優しい舌触りに変わる。



▲ヤマメの刺身。養殖だからこそ味わえる特別な一品。コリコリとした食感が味わえる。



▲ヤマメの切り身。丁寧に皮を取り除くことでヤマメ特有の食感を味わうことができる。

### 調査を終えて

ヤマメに関する調査を通じて、タブレット調査や聞き取り調査、養殖体験を行い、ヤマメの生育における繊細さと管理の重要性を理解しました。特に、ヤマメの大きさの選別、水温管理、定期的な餌やりの実施とその分量については、細やかな配慮が必要であり、これらはヤマメの健康的な成長に欠かせない要素です。

また、旧本川根中学校のプールを釣り堀として活用することで、地域の観光資源として新たな魅力が生まれることが期待されます。この取組は多くの人々を惹きつけ、地域活性化にも寄与することでしょう。釣り堀運営は単なる養殖にとどまらず、訪れる人々に楽しさや学びを提供し、集客効果が高まると見込まれます。

ヤマメの流通促進には、SNSやYouTubeなどを活用した周知活動が不可欠であり、パンフレット作成も重要です。視覚的に訴える情報を提供することで、来場者の関心を惹きつけることができます。

さらに、水の循環については学校のプールの循環ポンプを利用して

きる利点がありますが、日光を遮る屋根や脱走防止柵の設置が課題です。これらのインフラ整備は、安全で快適な環境を提供するために必要です。特に脱走防止柵は、ヤマメが外部環境から逃げ出すことを防ぎ、安定した養殖環境を維持するために重要です。このように、ヤマメの養殖と釣り堀運営は多くの可能性を秘めており、地域住民や学校との連携を強化しながら進めることで地域全体の活性化につながることを期待されます。

### ヤマメ探求の成果を議会で



私は元々魚や両生類が好きで、プライベートでも釣りを楽しんでいました。そのため、町内に生息するヤマメを探究学習のテーマに選びました。一年間の探求を経て、議会で発表する機会を得たことに感謝しています。小学生の頃に議場に入った経験はありますが、今回のように発言するのは初めてで、緊張感がありました。しかし、自分の言葉で思いを伝えることができ、とても貴重な体験となりました。

光の森学園9年 中村 陽瑠斗

### ヤマメの養殖を行う梶山さんにInterview

ヤマメの養殖は約40年前に始まり、最初は富士の養殖場から有精卵を購入して研究をスタートしました。独学で養殖に必要な知識を学び、本格的な養殖に取り組むようになりました。ヤマメは寒冷域に生息しているため、水温と水量の管理が重要です。特に夏場は高温になりやすく、病気を防ぐために水温管理を徹底しています。理想的な水温は16度から18度で、20度を超えないよう注意しています。

また、空き校舎のプールを利用したヤマメの養殖や釣り堀の活用提案は面白いアイデアであり、循環ポンプなど設備環境が整っているため、水温管理や費用の問題をクリアすれば実現可能だと考えています。



かじやま まさし 梶山 雅史 さん